

## 会議録

会議の名称	令和7年度第2回西東京市立保谷第一小学校建替協議会
開催日時	令和7年10月14日(火曜日)午前10時から
開催場所	西東京市立保谷第一小学校 図書室
出席者	<p>【委員】            原会長、高橋副会長、児玉委員、中野委員、阿部委員、笹森委員、牛村委員、吉村委員            (欠席) 倉内委員、藤江委員、伊藤委員、稻澤委員</p> <p>【事務局】            飯島教育企画課長、鈴木教育企画課企画調整係長            中屋教育企画課企画調整係主査、淺水教育企画課企画調整係主任            関澤教育企画課企画調整係主任、木藤教育企画課企画調整係主事            稲村公共施設マネジメント課長補佐            陸名公共施設マネジメント課マネジメント係長            渡海公共施設マネジメント課マネジメント係主査</p> <p>【傍聴人】            3人</p>
議題	議題1 第1回会議の会議録について 議題2 周辺施設との複合化について 議題3 特別支援教育について 議題4 将来像・建替コンセプトについて (校内見学・グループワーク) 議題5 在校児童向けアンケートについて 議題6 その他
会議資料の名称	資料1 青嵐中学校周辺エリアの方向性 資料2 特別支援教育について 資料3 保谷第一小学校の将来像・建替えコンセプトの検討について 資料4 「あたらしい学校のアンケート」(在校児童向け)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>&lt;開会&gt;</p> <p>議題1 第1回会議の会議録について            第1回会議の会議録内容について、各委員に異議がないことを確認し、承認。</p> <p>議題2 周辺施設との複合化について</p> <p>○事務局            (資料1について説明)</p> <p>○会長            事務局より、周辺施設との複合化について説明があった。各委員より意見・質問等を伺う。</p>	

○副会長

地域のキーステーションとして、青嵐中学校に新たな機能を付加する計画はあるのか。

○事務局

ハード面における施設の複合化や配置には、現状学校が建っているため、建築基準法上の観点からも課題がある。相談機能などのソフト面は中学校での整備を検討していきたいと考えている。

○委員

地域のキーステーションとして、社会参加の創出とあるが、具体的なイメージはあるか。

○事務局

顔と顔が見える関係づくりが重要であると考えており、交流スペースなどを整備し市民が集う仕組みづくりをしていきたい。地域福祉コーディネーターを配置し、地域のお困りごとの相談やボランティアなどで人と人をつないでいきたいと考えている。

○委員

地域で開かれた学校にしていく一方で、不審者対策などの児童の安全を担保することに対して、市はどのように対応していくのか。

○事務局

総合計画や教育計画、学校施設個別施設計画に基づいて、地域の方に利用していただけるよう整備していくが、教育が第一優先であることから、複合化や地域利用に当たっては、ハード面とソフト面の双方でセキュリティを担保していく。

○会長

地域での利用にあたっては、警備の仕方や動線の整理などハード面の整備も行っていくと考えてよいか。

○事務局

ハード面においては、複合施設のゾーニングの中で、職員室の配置階層やゾーニングの境界に扉をつけるなどが、他自治体の複合化の事例でも行われている。ソフト面では、警備員を配置するなど、子どもたちの安全面についてもしっかりと検討していく。

○委員

適正配置の状況で空白となっている施設（集会所・基幹型保育園）があるとわかつたが、品川区では、介護施設と保育園と学校が同じ施設にあり世代間交流になっている。市としては、そのような考え方はないか。

○事務局

田無第三中学校の複合化では、複合化の効果が重要と考えている。別の会議体からの意見では、震災時に中学生が保育士をサポートして、園児を連れて避難したという話もあり、ボランティアの協力も含め、保育園を中学校に複合化する方が望ましいと考えている。

○委員

防災の観点から中学生は地域の担い手になるとを考えている。青嵐中学校には、新たな施設を複合化できないので、小学校に一定の施設を複合化させることは理解した。その中で、学校と複合施設が連携する取組があるのかと思い確認した。

○事務局

エリアで必要な機能を整備するため、保谷第一小学校や栄小学校に機能を分散して整備していくことを検討している。

○委員

核家族化が進み世代間交流が減少している。お年寄りや子どもに対する思いやりを学ぶことは、教育的観点からも重要と感じており、そのような施設が西東京市にもあるとよい。

○会長

複合化の範囲については、検討状況等を今後も協議会へ情報提供されたい。

○副会長

学区域の状況をみると、学童クラブと市民交流施設の複合化が必要と見受けられるが、基幹型保育園はどのような配置を検討しているか。

○事務局

基幹型保育園は、相談機能が必要となり、一定の敷地面積が必要になる。こまどり保育園は面積的な課題もあるが、耐用年数が令和25年であるため、効率的な整備の観点からは、もう少し後に更新することが望ましいと考えている。

また、学校の建替え時には保育園の複合化を検討するが、複合化は教育環境に支障がない範囲であることが前提のため、限られた面積の中で学校教育に必要な面積を踏まえた上で検討するものと考えている。

○委員

しもほうや保育園を基幹型にする想定はないか。

○事務局

基幹型にする保育園は公立保育園を対象としている。

○委員

しもほうや保育園は以前、公設園であったが、民間移譲されているため、新たに公設園を整備する考えでいるということか。

○事務局

保育園の考え方としては、中学校通学区域に相談機能を持つ基幹型保育園を1園配置することとしている。しもほうや保育園については、複合化の考え方が定まる前に民間移譲が進められていたため、複合化の候補に入っていない。

議題3 特別支援教育について

○事務局

(資料2について説明)

○会長

事務局より、特別支援教育について説明があった。各委員より意見・質問等を伺う。

○委員

知的障害（以下、「知的」という）と自閉症・情緒障害（以下、「情緒」という）のクラスは分けないと勉強にならないと思う。知的と情緒いずれかの設置ではなく、両方の学級が併設される必要があると考える。知的の中でも子どもによって状態が異なり、途中で知的から情緒へ変わることもある。知的だけで3～4クラス、情緒も2～3クラスは必要と感じている。

○事務局

小学校への特別支援学級の整備については、今後、児童推計や敷地面積等を踏まえ、長期的な視点をもって検討していく。

○副会長

特別支援学級の設置は既定路線として考える必要がある。一方で、併設については、指導の難しさなどの課題があることから、いずれかの設置が望ましいと考える。

○事務局

教育委員会の方針としては、建替え時に特別支援学級を新設することとしている。

将来像や建替えコンセプトについては、新しい学校に特別支援学級が新設されることを前提に検討いただきたい。

○委員

知的、情緒のいずれかの設置となった場合、保谷第一小学校には知的、栄小学校には情緒といった配置にするという考え方か。

○事務局

場合によっては、そのような配置になる可能性もある。

○委員

成長の段階で知的から情緒に変わることもあり、転校などによる子どもや保護者の負担を避けるため、教員の負担等はあるが、知的と情緒の双方に対応できる環境を整備してほしい。

○事務局

障害の種別によって、子ども一人ひとり困っていることが異なる。本市は、自閉症・情緒障害の学級が早期に整備された学校があるなど特徴があるため、新たな学校の整備に向けて様々なご意見をいただきたいと思っている。

○委員

特別支援学級の教員へのヒアリングなど予定しているか。

○事務局

今後検討する。

○会長

本校は特別支援教室の巡回指導の拠点校になっており、5校の指導を行っている。

新しい校舎になった際には、特別支援学級（固定級）を設置することになるが、今回、委員から知的、情緒学級のいずれかの設置又は併設についてそれぞれご意見をいただいた。

議題4 将来像・建替コンセプトについて（校内見学・グループワーク）

○事務局

（資料3について説明）

○会長

事務局より、将来像・建替コンセプトについて説明があった。各委員より意見・質問等を伺う。

（意見・質問なし）

○会長

各委員には、校内を見学していただき、その後グループワークで将来像・建替コンセプトについて検討を行う。

《校内見学》

○グループワーク（保谷第一小学校の将来像・建替コンセプト）発表

【A グループ】

①テーマ：学校（教育施設）

将来像：学びの場としての学校、「関わり」「対話」のある学校、子どもたちが「行きたい」と思える学校、子どもたちが「学べる」「遊べる」場所、地球の環境を守ることを考えることができる子へ

コンセプト（具体的な機能・空間）：

広くて思い切り運動ができる校庭、広くて社会教育にも転用可能な体育館、畑がある校园、非認知的能力を育む場・共有スペースや図書館などの「関わり」のスペース、各階に学年交流スペースや本に親しむ集いのスペース、教室・特別教室のハード面の充実・ICT化、児童数の変動

に対応した可動式壁の教室、災害が起こっても勉強ができる環境の確保

②テーマ：地域のステーション

将来像：子どもから大人まで日常に溶け込む学校、学校では学べない経験ができる場所、異年齢の交流ができる地域に開かれている学校

コンセプト（具体的な機能・空間）：

地域の人との交流スペース、世代間交流ができるスペース、住民をつなぐ場所、農家が多い地域柄を生かした野菜販売所（土日限定）、移動販売の車が来られるスペース、有料のレンタルスペース

③テーマ：防犯・災害

将来像：継続して地域を守る土（みんな）の学校、子どもたちの安全やプライバシーが守られている場所、災害時にも快適に過ごせる場所

コンセプト（具体的な機能・空間）：

災害時を考慮した校舎や体育館の配置、備蓄倉庫への動線、災害時の自家発電システム、日常的に足を運んでもらう工夫（販売所の併設、コンサートの定期開催など）

【B グループ】

テーマ：集い、学び、つながれる学校

将来像①：子どもが学びやすい学校、子どもが独りぼっちにならない学校、放課後にそのまま残れる学校

コンセプト①（具体的な機能・空間）：

フリースクールのような不登校の生徒も通えるスペース、鏡と音響を完備したダンスルーム（アリーナ）、用具などが使いやすい体育館、ロッカーを配置し整理された廊下、放課後も利用可能なパソコンルーム、軽食が食べられる場所

将来像②：心身ともに健康であること

コンセプト②（具体的な機能・空間）：

アスレチックのような遊具、体を動かせる場所・遊具、体育館以外室内で遊べる空間、冷水器

将来像③：安心できる学校（施設も先生も）、児童・保護者・地域住民の安全が守られ安心できる学校

コンセプト③（具体的な機能・空間）：

顔が見えるインターフォン、GPSなどで子どもの通過点や位置情報がわかる

将来像④：地域と共にある学校、地域の方々と関わる学校、保護者や地域住民が集い元気になる学校、各世代が学べる学校、レインボー（縦割り）班のような学校

コンセプト④（具体的な機能・空間）：

家庭科室などの特別教室の貸出機能、図書館機能、PTA室、しらうめネットワーク・保護者・地域の方が集い自由に使える部屋、給食室等への空調整備

議題5 在校児童向けアンケートについて

○事務局

（資料4について説明）

○会長

事務局より、在校児童向けアンケートについて説明があった。意見・質問等を伺う。

○委員

次回の視察先はどこになるか。

○事務局

府中市の府中第六小学校を予定している。詳細については、後日連絡する。

議題6 その他

○事務局

本日の議事要旨は第1回会議と同様、後日メールで送付させていただき、委員確認後の第4回会議で了承を得て公開する。

<閉会>